

乳がん検査

乳がんについて

乳がんは乳腺に発生する悪性腫瘍です。30代後半から増加傾向がみられ、40代後半に乳がん発生のピークがあります。

日本人女性は12人に1人が一生のうち一度は乳がんを発病するといわれています。早期に治療されれば治りやすいがんのひとつですが、治療後10年以上経過しても再発する場合があります。

KKCでは視診・触診とマンモグラフィ（乳房レントゲン検査）、超音波検査を行っています。

マンモグラフィは対策型検診として乳腺の影響が少なくなる40歳以上の方に推奨されています。

若い方や妊娠中の方は被曝のない検査方法として超音波検査を受けていただけます。

マンモグラフィ検査

マンモグラフィは乳房専用のX線撮影装置を使った画像診断法です。しこりとして手に触れない石灰化も鮮明に写し出されます。

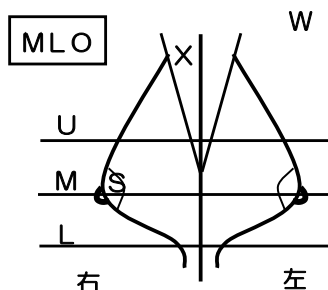
マンモグラフィ機器



検査イメージ

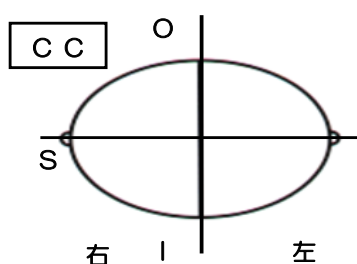


＝ マンモグラフィ検査における撮影方向、部位記号の説明 ＝



MLO 内外斜位方向での撮影（上下方向やや斜め）

- L：乳頭中央部より乳房下縁までの領域
- M：乳頭中央部からLと同じ長さの上方領域
- U：Mより上の領域
- S：乳頭中央から2cmの乳輪領域
- X：腋下（脇の下）
- W：全体



CC 頭尾方向での撮影（左右方向）

- O：乳頭中央部より外側
- I：乳頭中央部より内側
- S：乳頭中央から2cmの乳輪領域

乳房超音波検査

超音波機器

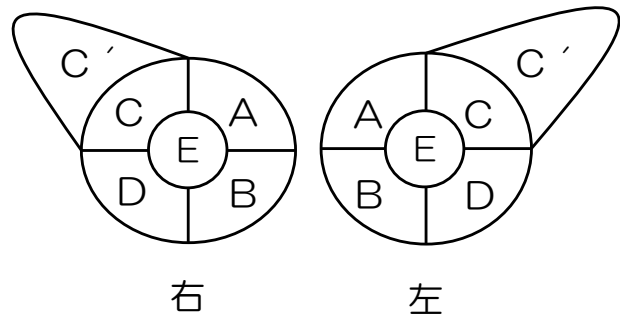


レイアウト例



＝ 超音波検査における部位の説明 ＝

超音波検査においてKKCでは以下の
ように領域の設定をしています。



KKCの判定及び所見の解説

KKCでは下表に示すように5段階で判定しています。

判 定	解 説
異常所見なし	異常所見を認めず、1年後の健診（ドック）受診でよいもの。
有所見健康	所見は認められるが、その所見に関しては症状がなければ1年後の健診（ドック）受診でよいもの。
要経過観察 (3, 6, 12ヶ月内再検)	経過観察を要し、3, 6, 12ヶ月内のいずれかに再検査が必要なもの。
治療中・ 経過観察中	すでに医療機関で治療中、または経過観察中のもの
要精密検査	異常所見を認め、精密検査の必要があるもの、または治療を要するもの。

乳がん以外によく見つかる所見には次のようなものがあります。

所 見	解 説
線維腺腫	割合若い人に多い良性の腫瘍です。手術で取り除くほうが良い場合もあります。
のう胞	乳房の中にできた袋で、液体がたまっています。大きくなると、内部の液体を注射針で抜き取るほうが良い場合もあります。
乳腺症	乳腺内の良性のしこりで、手で触れることもあります。痛んだり、乳首から乳汁が滲み出ることもあります。中年期に多く、性ホルモンのバランスの崩れが原因とされます。